



写真 神宮寺(福井県・小浜) のスダジイ

西村法律事務所

ニュース

〒604-8161 京都市中京区烏丸通三条下ル

大同生命京都ビル2階

Tel:075-253-2035 Fax:075-253-2135

Web : <http://www.lawfield.com/>

Blog : <http://blog.lawfield.com/>

発行：令和5年1月

この2年半の過ごし方

弁護士 西村幸三

外出で世界は拡がる

コロナ禍で、発信をブログ中心にして、事務所報もWebにしていましたがようやく再開です。

コロナ禍の2年半、高齢者は極端に外出を控えた方が多かったです。

足腰が弱り、認知機能が低下し、自肃を煽るワイドショーを見続け、恐怖と怒りと苛立ちでうつ状態になった方も多かったと思います。

ワイドショーの皇室問題で無用に苛立ったお年寄りも多かったかもしれません。

コロナ禍の苛立ちで家族関係が不和に陥る事例もみました。

心身とも健康だった方の巣篭りのせいで変わるように驚いたことも一度ならずありました。

私はといえば、2年前の4月の緊急事態宣言のころも、自家用車で寺社巡りをしていました。

2020年のGWに清水寺に行ったときは、あの舞台にわずか参拝客3人でした。

コロナ前から札所巡りで地方のいろんな寺を訪れていましたので、もともと札所の寺巡りは人出がごく少ないこともわかつっていましたので、こんなときこそ自家用車で札所巡り、と決めていました。

訪れた寺社ではマスクを外し、草花、樹木、掃き清められた美しい境内、庭、伽藍、仏像、青空とおいしい空気を存分に楽しみました。

手を合わせて、薬師如来には家族・スタッフ・友人・お客様の健康を祈り、観音菩薩にはみなさんの厄災を除いてもらうよう祈り、不動明王には自他の邪気を払い滅尽してもらうよう祈りました。

自然是心を癒やし、祈りは心を朗らかにします。

心身の健康が向上します。

境内全体が掃き清められた美術館です。

わずかな御朱印料や入山料で得られる心の豊かさは、美術館やコンサートにはるかに勝ります。

心からの感謝の念で、手を合わせました。

京都市内の大寺院は避け、日帰りから1泊2泊程度で近畿一円に足を伸ばしました。

札所巡りの寺は、およそ観光地ルートから外れたところに多くあります。

観光地巡りの旅では走ったことのないような道、通り過ぎたローカルな町を多く走ります。

これまでのあり当たりの観光地巡りでは、全く見えなかった、その地域の人々の生活の息吹を発見する連続でした。

ふらりと立ち寄る田舎町の飲食店や宿では、どこでも地元の方との話が弾みました。

コロナ禍で苦しむ飲食店や宿への、応援の気持ち、出会いの楽しみ。

道の駅、立ち寄る町の商店でのたわいもない買い物。

インターネットで落ちているローカルな地元情報を探すのは楽しいものでした。

四国遍路八十八カ所は、既にコロナ禍前に夫婦で満願していました。

以来、札所巡り＆ローカルの町のぶらり旅が、夫婦の趣味となっていました。

西国三十三カ所と新西国三十三カ所は、コロナ禍中に満願しました。

寺だけではなく、一之宮や地域の古い神社にも立ち寄ります。

神仏霊場152箇所、花の寺、仏塔古寺、役行者霊跡、西国薬師霊場、丹波古刹、近畿不動霊場はこの2年半で8～9割方回りました。

コロナ禍が終わり、いまや京都は人が戻り、街も観光地も再び大混雑です。

もちろん、京都市内でも人の少ない散策は可能で、穴場やオフシーズンの京都市内の寺社巡りも、結構楽しんでいます。

人混みを避け、観光地でない見知らぬ町を徒歩や車で探索し、知らなかつた日本をくまなく味わい尽くすスタイルに、もうすっかり味をしました。

次は近畿以外の鄙びた町や寺社巡りに食指を伸ばしています。

濃厚なデジタル漬けがますます進行する中、オフの日は切り替えて自然に触れて、目を休め、心を休め、外出で見知らぬものと出会い豊かな体験を重ねることが、人生を濃く生きる秘訣と感じます。

書籍、ネットでの情報収集

宴会が減り、夜の時間が余り、ぶ厚い法律書を、いつもの拾い読みでなく通読・精読する時間ができました。

この間法律書だけで数十冊は読み込み、頭をブラッシュアップしました。

本屋巡りには、むしろ実り豊かな二年間でした。

コロナ禍中に執筆されたもの含め、むしろ工学・IT・科学系・歴史その他もろもろ法律以外の各分野の専門書で良書と巡り会えました。

情報収集についてはコロナ禍前からの5年10年くらいでネットへのシフトが確実に進みました。

日経電子版への移行はじめ、ネットの無料ニュースサイト数十を登録しています。

雑誌もDマガジンに移り、充実著しいYoutubeのニュースチャンネルやYahoo動画ニュースに移行し、地上波テレビはまず見なくなりました。

最近はTakarazuka Sky Stageの視聴時間が一番長いかもしれません。

映画もサブスク、ネットLiveで最新のコンサート・演劇ほか蓄積されたライブラリーまでかえって深く広く楽しみやすくなつたといえます。

新聞・地上波TVはコロナ禍を煽り、もはや若者・働き盛り世代だけでなく、お年寄りにも見捨てられつつあります。

ここ数年、国会図書館デジタルアーカイブで戦前の貴重な本がネットからpdf形式でダウンロードして読めるようになりました。

戦前の、旧仮名遣い・漢字書き下し文の国訳華厳經・大般若經、その他江戸～昭和初期の古書を、何千ページも、プリントアウトしました。

古書を買ったらあつという間に何十万円はかかるものです。

一生いつかは読みたいと思っていた絶対的類を、コロナ禍で空いた時間にあかせて読みあさることができました。

今や、中国の古典から大正大蔵經まで手軽に全文検索ができる時代になっています。

Google Scholar, ciniiでは多くの学術論文が各分野手軽にネットで読め、PDFからプリントアウトできるようになっています。

古書のデジタルアーカイブ、学術論文、学術研究の進歩と積み重ねに、こうも手軽に触れられることは、まことに隔世の感があり、感動ものです。

古いものの蓄積と新しい技術の融合が、豊かな成果としてたわわに実っています。

でも、世間一般の方や、若者のインターネット検索スキルは意外と高くなのか、豊かな環境の活用に追いつけていないと感じます。

SNSのお勧めニュースも試して見ましたが、受動的に見ていてもなんとも浅いので、やめてしまいました。

やはり自分で情報を検索し、知らない世界を探索しないと面白くありません。

普段どれだけアンテナを広げているかの積み重ね、そのたび深く追究して調べ込んでいるかでスキルに差が付いていくと感じます。

二年一昔

役所もネットに必要な情報をきちんとアップしてくれるようになりました。

法規制を調べるにも、E-GOVや各省庁のサイト始めインターネット情報をきちんと当たりつつ、複数の判例文献検索ソフト、リアルの書籍の文献調査を組み合わせながら、スピードに最新の答えを導くようになっています。

法律事務所の取り扱う業務分野も移り変わりが激しく、多くの顧問先において新規事業展開など大きな変化が起きています。

十年一昔どころか五年一昔、特にコロナ禍の2年間でいえば二年一昔です。

ルーチンの仕事も急速にブラッシュアップが進んでいます。

あらゆる業界にアンテナをめぐらせてレンジをキャッチし、仕事のやり方から内容までをブラッシュアップして対応していくのは楽しいものです。

顔を合わせる

そんな2021年7月から2022年6月まで1年間、ロータリークラブの会長を務めました。

コロナ禍でもめげずに事業意欲にあふれたメンバーで、励まし合い、会員数は減るどころか1年で66人から70

人に増え、さらに年度替わって半年で74人まで増えました。

元気な経営者は元気なところに集まるものです。

リアルで顔を合わせることを疎かにすると、成長の機会を失います。

成長の機会を失う悪影響は若者ほど大きいですが、中高年も確実に成長の機会と人生の豊かさを奪われます。

いよいよコロナ禍も開けました。感染対策しながら行動にメリハリをつけ、リスクを秤にかけて慎重に対応したいものです。

皆様の末永い繁栄を祈念致します。

変化に揺らぐ、

不安と希望

弁護士 大谷俊介

街を歩いていると、いつの間にか景色が変わっていることに気が付くことがあります。

テナントが退店し新しい店舗の準備に忙しそうな様子、建物が取り壊されて新しいビルが建築されている様子。

これらは以前からありふれた変化だったと思いますが、最近の特色としては、テナントが退店したがなかなか次の店舗が決まらない、建物が取り壊されたが新しい建物の工事が始まらない、ということが増えているように感じます。

変化のスピードが昔よりも早くなつたとよく言われますが、今は社会の新陳代謝がうまく機能していないように思います。

少し視点をマクロに移しても、人口減少に伴う諸問題(コミュニティの消滅、国際競争力の低下)にどのように対応していくのか、政治も難しい舵取りを求められる時代になりました。

歴史を振り返れば、進歩の時代もあれば、停滞の時代もありました。どんな隆盛もいつかは停滞し、停滞がなければ、破壊は起こらず、破壊がなければ新しい価値観は生まれない、そんな風にみえます。

現代が後世においてどのような時代であったと位置付けられるのかは分かりませんが、いずれにしても私たちは、必死でもがくしかないのでしょう。

繁華街に佇む更地を見て、そんなことを考えたりしています。

サッカー日本代表

弁護士 赤尾啓太

サッカー日本代表が大好きです。

サッカーのプレーは小学校でやめてしまい、その後は専らテレビ観戦のみですが、1997年に岡野選手がジョホールバルで劇的なスライディングゴール(中田英寿選手曰く「やっと決めてくれたか」ゴール)を決めた頃から、日本代表戦は殆ど全て観ていると思います。代表戦になると、父が我が物顔で選手を批評し、母がチャンスで耳を貫く金切声を上げるというのが定番の光景でした。

今回のワールドカップも存分に楽しませていただきました。どこでもドアでピッチと繋がっているかの如く画面に向かって熱くなり、怒り、喜ぶ私を見て、妻は引くという感情を通り越して恐怖を感じていたようです。

この大会では、コスタリカ戦後の選手達の態度に感銘を受けました。

敗戦後には、特定の選手のSNSに数多の誹謗中傷が書き込まれたようです。所属クラブの試合も含め、選手は、試合で負けると、道端で見知らぬ人から罵られるようなことも日常茶飯事と聞いたことがあります。報道も「何ができるないのか」ばかりを繰返し繰返し繰返し繰返し容赦なく追求していました。少し上手くいかなければ世界から罵詈雑言を浴びせられるようなもので、仕事をするに、異常な環境としか言いようがありません。普通の神経では、自分を責め続けて失敗から抜け出せず、心が折れてしまうのではないかでしょうか。

そんな中でも、日本代表の選手達は、インタビューでも「次に勝てばいい」と毅然と述べて、周囲の声は雑音として付き合いませんでした。自信を失わず、日常行っているであろう準備を継続して、スペイン戦に勝利しました。日頃から、どれだけ厳しい環境の中で自分を鍛えているのかと、感動しました。

クラブの世界トップチームの監督(リバプールのクロップ監督)が、何かのインタビューで、「サッカーのピッチで起こることの8割以上は失敗に分類されるもので、完璧なことをしたと思える瞬間はほんの一握りである。我々の仕事は、起こる失敗にどう対応するかという点にある」といった話をしているのを見た

ことがあります。選りすぐられた才能の塊が集結して日々膨大な努力が積み重ねられているサッカー界のトップオブトップですらそうなのだと、仕事の姿勢を正された記憶があります。そして、そうあればと願うようなその前向きな姿勢を、体の芯から実践された日本代表を見て、胸が熱くなりました。

日本代表は、これからも進み続けてくれるでしょう。世界の強豪国になり、ワールドカップを勝ち取るという挑戦から、今後も目が離せません。

失敗ノートと褒めノート

弁護士 川井あかね

自己紹介

平成30年12月から当事務所で勤務しております、川井あかねと申します。当事務所いちばん若手の私も、お蔭様にて弁護士5年目に突入いたしました。少し自己紹介をさせていただきます。

私は、三重県津市出身、同志社大学法科大学院を卒業後、京都での司法修習を経て、当事務所での勤務を開始しました。

小学校時代から競泳をしており、高校時代にはスイミングクラブに所属すると同時に高校の水泳部にも所属していましたので、夏休みなどは一日中泳いでいました。

私の通っていた高校は公立で、練習場は屋根も壁もない、炎天下にさらされたプールでした。

今は色白の私ですが、当時は水着型、キャップ、ゴーグル型に真っ黒に日焼けをしていました(文字通り黒歴史…)

引退後は、求めれば白くいられるとということに喜び、反動で日焼け対策が趣味になったほどです。

また、ここ数年熱中している趣味は、宝塚歌劇の鑑賞です。

これまで特に熱中するような趣味(いわゆる「推し」)を持ったことがなかったのですが、最近は「推しのいる日々」を満喫しています。

週末の楽しみ(宝塚大劇場まで足を運ぶこともしばしばですが、家でテレビ鑑賞することもできます)があることは日々の業務の活力になるものです。

業務においては、これまで多種多様な案件を経験させていただきましたが、最近では離婚、相続等の家事事件、労働事件(使用者側)、建築紛争を担当する機会が多く、若手弁護士は日々奮闘中です。

失敗ノートと褒めノート

自己紹介はこの程度にさせていただきまして、本題です。

私は、出来事や気持ちを文字にすることを好み、自分でもぞつとしますが、かれこれ17年にわたり、なかなかの頻度で日記をつけています。

そして、弁護士を始めたころからは、日々の出来事や気持ち以外に、「失敗ノート」と「褒めノート」なるページを作成するようになりました。

振り返ってみてみると、これがなかなか面白い。

「失敗ノート」には、赤字で、失敗してしまったことを記録しています。

例えば、「Aの件、相手方代理人に対してもっと怒らないといけない場面だった」とか「Bの件、予備的主張を書面案に書いてみたが蛇足だった」、「Cの件、尋問事項案は回りくどすぎた、もっと端的に」、「コロナで打撃を受けている業界かもしれないことを考慮した話し方をすべきだった」のような業務上の失敗もあれば、「D会の飲み会、さすがに存在を消して黙りすぎた」のような日常的なものまでレパートリー豊かな失敗が書き記されています。

一方、「褒めノート」の部分には、青字で、我ながらよく頑張ったことを記録しています。

例えば、「Eの件でこの団体に事前情報共有して相談おいたのはナイス」とか「Fの件、法人税のこと気につけたのはナイス」、「Gの件、中間報告入れるタイミングベスト」とか、偶然のようなエピソードも含まれますが。そしてこれらが役に立つ。

赤字をたどると、自分がいかに失敗したか、そのときの記憶を思い出し、毎度新鮮な記憶のように肝を冷やす。

ときどき思い出して肝を冷やすことにより、同じ失敗を繰り返さないことに役立ちます。

もっとも、赤字をたどるには、結構な精神力が必要です。

弱っているときには見るものではありません。

絶望し心を折ります。

一方、青字をたどると、こんな自分にもまあ褒められた部分もあるではないかと、自分にささやかな自信をつけることに役立ちます。青字をたどることには精神力は必要なく、弱った心のお薬です。

大切な赤字青字をノートと心に蓄積しながら、日々精進致します。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

シネマ、シネマ、シネマ

弁護士 西村幸三

コロナ禍の間、映画をいろいろ見直した、という方も多いでしょう。私はAmazon Prime Videoなどで邦画の名作のよさを再認識する機会に恵まれました。

まずはその中から紹介。

おかげさまで、最近、邦画を映画館で見る機会が増えました。

邦画

今夜、ロマンス劇場で

一年前の宝塚月組公演でも劇場がすすり泣きに溢れたと絶賛されました。笑いあり涙あり。観たら3度は泣くでしょうか。「義母と娘のブルース」に並ぶ綾瀬はるかのツンデレ作品。

陽だまりの彼女

観ていてずっと心地良く、ジワジワ悲しくなって止まらないファンタジー。

そして、バトンは渡された

何人の育ての親を転々とする娘が成長していく。親とはいかにあるべきか。観ていてずっと心温まり、あちこちで涙涙。

君の臍臓をたべたい

若者が病や死と向き合うテーマは重いはずなのに、プロットにのめり込んでいき、どっと来ます。

いま、会いにゆきます

はじめから泣かされると覚悟しているのに、観たら何度も泣きます。

太秦ライムライ

斬られ役大部屋俳優福本清三が晩成の美を飾る。「鎌倉殿の13人」暗殺者トウ役の山本千尋の出世作。松

方弘樹との3つ巴の殺陣はもう最高にカッコいい。

洋画

洋画は主にアクションで好きな俳優の定番の続編や、シリーズを見返すことが多かったです。銃乱射とカーアクションものをつい観てしまいますが、過激なものが多いので、鑑賞される際はご注意ください。

ターミネーター・ニュー・フェイト

37年前のシリーズ1作目からの総決算。シュワルツェネッガーとハミルトン、今度こそ最後の降臨で、リフレインとオマージュを満喫。

トップガン マーヴェリック

粗が目立った軽薄気味な前作とは別物。「エリア88」のタイトロープ作戦ほかいぶし銀のエピソードをあちこちで想起させる戦闘機乗り作品の極上品。

ミッション：インポッシブル（シリーズ）

トム・クルーズの渾身作。何度見てよいです。

ディパーテッド

ディカプリオの作品の中で実は一番好きです。香港映画のリメイク。

極大射程 ザ・シューター

マーク・ウォールバーグの苦み走ったキャラの作品の中でも無茶苦茶かっこよくてお勧め。

トランスポーター（シリーズ）

ジェイソン・ステイサムの作品は大体ハズレがありませんが、やはりリュック・ベッソン脚本のこれでしよう。

ANNA

「LEON」（ジャン・レノ）の女性版。バイオレンス注意。

TAXi（シリーズ）

リュック・ベッソン監督が続きます。但し1, 2くらいまでですか。

007（シリーズ）

ダニエル・クレイグの6代目ボンドが秀逸でした。お疲れ様です。

インターフェラー

SF。現代素粒子論、多次元宇宙論の世界観はyoutubeの解説動画でさらにハマってしまいました。

アニメーション

アニメーションは、好きな定番を見返す流れになりました。四半世紀、ものによっては40年以上見続けているシリーズです。

シン・エヴァンゲリオン劇場版:3.0+1.0

テレビ版、旧劇場版、新劇場版と、まともに終わらない結末に3周全部つきあい倒して（笑）26年。ようやく完結。最後は密度の濃いカタルシスでした。

宇宙戦艦ヤマト2199/2202/2205

1974年からですからもう半世紀のつきあいですが、なんとシリーズ全体のリメイクが始まってしまいました。前作にアラがある分リメイクが納得の出来です。現代物理学の理論を随所に踏まえているのが面白いです。まだループに付き合いたいと思います。

機動戦士ガンダム the origin I～IV

ファースト・ガンダムの直前のエピソード。待望の伏線を埋めるシリーズで、すべてにおいて非常に出来がよく、ファースト・ガンダムの登場人物も勢揃いしているので、このまま勢いよくファースト・ガンダム全体をリメイクして欲しいところです。

君の名は

天気の子

すずめの戸締まり

すっかりジブリのお株を奪ってしまった感のある新海誠監督の3部作。

これらの作品も、素直に観に行つて楽しむことになるでしょう。

【事務局より】

お客様からいただいた胡蝶蘭の二番花が令和4年6月に咲きました！

